

平成23年行政事業レビュー(外務省)								
事業名	赤十字国際委員会(ICRC)拠出金 (任意拠出金)		担当部局庁	国際協力局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	昭和35年度開始		担当課室	緊急・人道支援課	課長 青木 豊			
会計区分	一般会計		施策名	VII-3 國際機関を通じた地球規模の諸問題に係る國際貢献				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、 通知等	(1)赤十字国際委員会規程第15条第1項 (2)ジュネーヴ外交会議決議11(1949年) (3)第25回赤十字国際会議決議24(1986年)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	赤十字国際委員会(ICRC)は、ジュネーヴ諸条約に役割が明記されており、他の国際機関にはない独自の活動を行っており、国際的にも高い評価を得ている。ノーベル賞を3度以上受賞した世界唯一の機関である。ICRCを支援することは、紛争地域の平和と安定に資するのみならず、我が国が人道危機の解決に対して積極的であるとの姿勢を国内外に示す。							
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	ICRCは、紛争犠牲者の保護を中心として、医療支援、食糧・生活物資等の支給、飲料水供給、衛生活動等の「緊急人道支援」を実施しており、我が国や他の国際機関が安全・能力上の制約から支援不可能な状況・場所で、時に「唯一の援助機関」として活動している。また、捕虜や被拘禁者的人道状況の監視、離散家族の安否調査等の「保護」活動や、国際人道法の普及も行っている。ICRCのこのような活動を通じて、紛争で苦しむ人々を支援する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度			
	予算の状況	当初予算	501	466	293	240	224	
		補正予算	2,147	3,331	4,230	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	2,648	3,797	4,523	240	224	
		執行額	2,648	3,797	4,523			
	執行率(%)	100%	100%	100%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)	
	紛争犠牲者の保護の実現 (救われた人命数)		成果実績	百万人	27.4	32.1	28.5	-
	(注)機関全体の目標及び実績		達成度	%	100%	100%	100%	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	①保健・医療分野の支援を受けた人数 ②水・衛生分野の支援を受けた人数 ③被拘束者訪問人數 (注)機関全体の指標及び実績		活動実績 (当初見込み)	人	①3.4百万 ②15百万 ③494,540	①5.8百万 ②14.25百万 ③479,669	①5.2百万 ②10百万 ③500,928	- ()
	単位当たり コスト	38.2スイスフラン/人		算出根拠	33.6億スイスフラン(2008年から2010年末までにICRCが支出した累積額)÷88百万人(同期間にICRCの支援により救われた累計人命数)=38.2スイスフラン			
平成 2 3 単 位 2 4 千 年 度 予 算 内 訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	赤十字国際委員会 (ICRC)拠出金	240,349	223950					
	計	240,349	223950					

事業所管部局による点検							
	評価	項目	特記事項				
目的・状況・予算の 使途	<input type="radio"/>	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。					
	<input type="radio"/>	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。					
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。					
資金の流れ、費目・ 使途	<input type="radio"/>	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。					
	<input type="radio"/>	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。					
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。					
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。					
	<input type="radio"/>	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					
活動実績、成果実績	<input type="radio"/>	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。					
	<input type="radio"/>	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。					
	<input type="radio"/>	活動実績は見込みに見合ったものであるか。					
	<input type="radio"/>	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。					
	<input type="radio"/>	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。					
点検結果	主要ドナー国が参加するドナー・サポート・グループ会合等を通じて、引き続き効率的な事業の実施を求めていく。						
予算監視・効率化チームの所見							
一部改善	拠出額減額						
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)							
(縮減)拠出額減額							
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)							